

平成23年度 鳥取商業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

教育に対する各教員の情熱と熱心な生徒指導の様子から、「鳥商教育のめざす姿」を学校全体で共有し、各教員が一丸となって取り組む姿や雰囲気十分に感じられ、生徒も落ち着き、学習や学校の諸活動に熱心に取り組んでいる。

今後は、これから進んで行く少子化の中で様々な問題に対応できる力を持った社会人を育成することを目指して生徒一人ひとりへの指導を充実させるとともに、安易な妥協や自己満足感に陥ることなく社会の動きの変化に対応したスピード感のある変革によって、全国に通用する教育内容へとレベルアップが図られるよう、学校運営の更なる改善を進めていくことが求められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 鳥取商業高等学校100年の伝統に育まれながら、生徒が穏やかな雰囲気の中で学生生活を送っており、めざす人物像「地域の産業経済界をリードし、活躍する人（職場の人に信頼され、情熱を持って仕事に励む人）」が、具現化されつつある。
- ② 細かい進路指導対応が数多くなされており、就職率100%を目指して成果を上げている。
- ③ 教職員全体で生徒指導に取り組む体制が出来ており、共通の理解のもとに実践を行おうとしている。その結果、問題行動も少なく、挨拶・服装・時間厳守の規律も守られ、注意や指導を受けた生徒も素直に聞く姿勢が見られる。
- ④ 「鳥商デパート」は、高校生活の集大成として位置づけられ、生徒自らの企画で仕入から販売を行うことで実際の商業活動が体験できるだけでなく、外部人材との連携の中で、現実の社会生活の厳しさやそれを克服していく喜びなどを知る貴重な機会となっている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒の要求に対応した授業改善が求められており、教師のスキルアップを図るために数値目標を設定し、生徒による授業評価を活用することが必要である。
- ② 学習環境面としての施設設備について、早急な耐震対応・津波対応、空き教室の有効活用などの課題もあり、その解決に向けて、教育委員会と密接に連携をとりながら整備を進めていく必要がある。
- ③ 学校課題の解決に向けた校内研修・校外研修のあり方について再検討するとともに、研修実施計画や研修記録の保存、全職員への還元、活用について検証が必要である。
- ④ 危機管理意識は問題が少ないとマンネリ化になる。想定外の事象にも柔軟に対処出来るよう、訓練や文書・情報の取り扱いの責任を明確にして常に注意喚起・点検をすることを望む。
- ⑤ 保護者から「情報発信が少ない」との指摘があり、様々な手段を講じて保護者への働きかけを積極的に行うことが必要である。また、情報公開の手段としてのホームページや地元マスコミをタイムリーに活用して情報公開の枠を広げ、保護者・地域の信頼をさらに高めることも必要である。